

Two Referees

南アフリカの Varsity Cup で 2 人レフリー制を導入するテストをはじめました。^(*)⁽²⁾⁽³⁾

refereeing の正確性を求めて「歴史は繰り返される」。1823 年に発祥した rugby は 1866 年の laws には umpires と呼ばただけで duties (仕事) の記録はありません。1874 年には両 captains が sole arbiters 唯一の判定者とされています。umpires と captains の意見が食い違う場合が多くなり、1881 年全てのゲームに neutral referees が採用されることになりましたが、1885 年全てのゲームに 2 名の umpire と 1 名の referee が指名されるとなっています。その後 referee が 1 人、タッチライン上の細かい判定を補う touch-judges が導入され Duty of Touch-Judges の NOTE が付け加えられ、永い間この形が維持されました。21 世紀に入って TV referee (Television Match Official) が加えられ touch-judges のプレー判断も必要と認められるようになりました。

南アフリカの André Watson^(*)が refereeing の accuracy (正確性) を保証するために 2 人 referees にすることが世界の rugby が前進する方法だと発言しています。ruck で one side にいることでボールが見えないし、多くの罪なることを見損なっているという理由です。

TV referee についてはトライという最も重大な事の判定を絶対正確にするためには、その人がフィールドを走り回る訳ではないので科学的方法でよいのかと無理に納得しましたが、ここまで言うのかといのが正直な感想です。

tackle は curious situation を生み出します。law の精神を生かして game の流れを作っていくのはプレーヤーであって referee の bad decision が問題ではなく bad play が課題なのです。偏った勝利至上主義は色々な弊害を生みます。“so rugby is not a professional sport ?” という発言もありますが重い内容を含んでいます。pro の世界では勝たねばなりませんしプレー評価は報酬に影響します。一つ一つのミスプレーや referee の反則判定がマイナス評価の対象になるのです。Don Rutherford^(*)が「国代表チームは sports でなく business」だと嘆いていたのも “good game” をする意識についてのことです。rugby の identity について今一度考え直さねばなりません。グローバル化が進み科学の進歩もめまぐるしい物がある現在ですが、変わらないものと変えるべきでないものも当然あるのです。最近ニュージーランドがユニオンジャックの入った国旗を変える動きがあると聞いていますが、これも大きな時代の波でしょうか。

André Watson は referee 界の boss です。強い南アフリカの boss の発言は強力です。“The History of the Laws Rugby Football” の前書き言葉等一笑に付されてしまうでしょう。フィールド上にプレーヤーに交って 2 人の referees が走り回るのに楽しいイメージが湧きませんが IRB は simpler and easier の線に結びつけるでしょう。

2014.02.08
西川 義行

*1: <http://www.sport24.co.za/Rugby/Watson-Rugby-needs-two-refs-20140131>

*2: <http://www.sarugbymag.co.za/blog/details/two-refs-seem-better-than-one>

*3: <http://www.sarugbymag.co.za/blog/details/dual-ref-systems-been-successful>

*4: http://en.wikipedia.org/wiki/Andr%C3%A9_Watson

*5: http://en.wikipedia.org/wiki/Don_Rutherford